

学校教育目標「自ら学び、心豊かでたくましく、未来を切り拓く三谷っ子の育成」
 信頼される学校をめざして ①今求められている学力を育む学校 ②子ども一人一人の心身を育成する学校 ③保護者・地域との連携を深める学校 ④望ましい教職員集団の学校

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
①教育課程・学習指導	児童一人一人に基礎的・基本的な知識と技能の習得を図り、自分の言葉で自分の思いを表現する力を育成する。	書く活動を各教科の授業に意図的に取り入れ、相手を意識して自分の考えを伝えたり、表現したりする力の向上を図る。	教務主任	昨年度より「書く活動を意識して学習に取り入れられたが、「書く力」にはまだまだ個人差が見られる。相手意識をもって、分かりやすく伝える力を育てる必要がある。	【成果指標】 各教科やほかの時間の課題やふり返り、自分の考えやまとめた事柄を相手に伝えるように、条件に沿って文章に表すことができる。	各教科において目的や条件に合わせて書く活動を意図的に設定できた教員の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、個別指導や補充学習を行い、指導内容を改善する。	学期末に教職員を対象にアンケートを実施する。
	国語科を中心に、児童が主体的・協働的に課題を解決する学びのプロセスを重視した授業改善に努め、今求められている学力の育成を図る。	学び合いの場における教師の関わり方の工夫や思考ツールの活用、振り返りの工夫に重点を置いた研究授業を全教員が実践する。	研究主任	児童の主体的に学び合う姿は徐々に育ってきているが、学び合いの場における教師の関わり方や、ねらいや児童の実態に応じた思考ツールの活用等について工夫していかなければならない。	【努力指標】 国語科を中心に、児童が主体的・協働的に課題を解決できるような授業を実践する。	児童が主体的・協働的に課題を解決していく授業を実践できた教員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CDの場合は、研究先進校の取り組みなどをもとに、指導法や取り組みの内容を改善する。	学期末に教職員を対象にアンケートを実施する。
	読書習慣を確立し、読書内容の質の向上を図る。	「朝の読書」「読書ノート」を継続して取り組む。個人の方に応じた個別指導を行う。「おすすめの本カード」等の活動を通して、必読書「宝石シリーズ」の目標冊数達成をめざす。	図書館指導担当	読書量は確保できているが、学年相応の本を手にとらない傾向があり、読書の質の低下につながりかねない。質の向上を図るために、「宝石シリーズ」の目標冊数達成を目指す。	【成果指標】 「読書ノート」に記録したり、「おすすめの本カード」等からヒントを得たりして、「宝石シリーズ」の学年の目標冊数を達成する。	「宝石シリーズ」の学年目標冊数を達成することができた児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、取り組みの方法を再検討する。	毎月の読書ノートや宝石シリーズ達成表、読み具合チェック表、全体や個別に働きかける。
②生徒指導	場に応じた気持ちのよいあいさつや言葉遣いの習慣化を図ることで、よりよい人間関係を育成する。	児童会のあいさつ運動、児童会集会、たてわり活動、運動会等行事で意識を高め、日頃の生活で活かすことができる。	生徒指導主事	休み時間など日頃から異学年と仲良く遊んでいる姿が見られる。しかし、あいさつが自分からできない児童や、強い言葉遣いをする児童も見られる。	【成果指標】 場に応じた気持ちのよいあいさつや言葉遣いをする児童が育つ。	自分から進んで気持ちのよいあいさつができた児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	7・12月に児童を対象にアンケートを実施する。
	全教職員が日常的に児童理解に努め、いじめ、不登校の未然防止や早期発見、発生した際の迅速かつ適切な情報共有、組織的な対応を図る。	月に1度児童理解の会を開き、児童の情報を共有する。学校生活アンケートやQ-Uアンケートをもとに児童と話し、児童の実態把握を図る。いじめ・不登校が発生した場合は、対策チームで組織的に対応する。	生徒指導主事	特に気になる問題はないが、友達同士の小さなトラブルが起こることがある。また、複式学級や少人数学級のため人間関係が固定しがちである。	【努力指標】 児童理解に努め、適切な情報共有をし、組織的に対応することができる。	児童理解に努め、適切な情報共有をし、組織的に対応することができた教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	7・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。
③進路指導・キャリア教育	よりよい人間関係を築きながら、夢や希望をもって努力し、意欲を持って学び続ける児童を育成する。	自分の周りにいる人々に積極的に関わること、自他の良さを認め合い、ともに高め合うという態度を育成する。	教頭	明るく素直であり、小規模校のため、異学年、男女を問わず仲が良いが、お互いに切磋琢磨し、高め合う場面が少ない。	【努力指標】 自分の良さを見つけるとともに、友達の良いところを見つけてあげることができる。	自分のことだけでなく、友達のことも大切にしようと思った児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CDの場合は取り組みの内容を再検討する。	7月、12月に児童を対象にアンケートを実施する。
④安全管理	危機管理意識を高め、防災教育の充実を図り、安心安全な学校づくりをする。	事故や自然災害など想定外の事態に備え、的確な行動がとれるように教職員の研修や訓練を推進していく。	教頭	年3回の避難訓練では様々な場面を想定して実施した。児童は教師の指示をよく聞き、迅速に避難することができた。今年度は事故や自然災害など想定外の事態に対しても自分の身を守るような児童に育てたい。	【成果指標】 さまざまな避難訓練によって非常時の際自分で自分の身を守ることにできる児童の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	さまざまな避難訓練によって非常時の際自分で自分の身を守ることにできる児童の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CDの場合は取り組みの内容を再検討する。	避難訓練終了時に振り返りを実施する。
⑤保健管理	児童の健康増進に向けた運動の習慣化を図り、バランスの良い体力の向上を目指す。	体育科では、第1回の体力テストの結果を分析し、担当学年の体力テストで弱い項目を意識した体づくり運動を取り入れる。さらにスポチャレ、体育的行事を通して、児童の運動機会を確保し、体力の向上を図る。	体育担当	休み時間には体を動かして遊ぶ児童が多く、運動が習慣化している児童が多い。体力のバランスが悪い傾向にあり、体力の個人差も大きい。	【成果指標】 年間2回体力テストを実施し、2回目の体力テストにおいて、各体力要素48項目中38項目(8割)以上H28年度の県平均記録の突破を目指す。	A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CDの場合は、取り組み内容は再検討する。	6月と10月に体力テストを実施する。
	児童一人一人の健康に対する自己管理能力を高め、基本的な生活習慣の定着を図る。	保健指導や保健の学習を通して、児童の基本的な生活習慣に対する意識を高め、健康生活チェック等を活用して、児童の生活習慣の把握、指導改善につなげる。	養護教諭	健康生活チェックから特に高学年の就寝時刻が遅く睡眠時間が足りていない児童がみられる。	【成果指標】 児童が健康生活チェック等の取り組みを通して、基本的な生活習慣が身につく、自己管理能力を高めることができる。	健康生活チェック(7項目)においてOの合計が全体の8割に達成することができた児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CDの場合は取り組みの内容を再検討する。	学期末に健康生活チェックを集計する。
⑥特別支援教育	気になる児童への校内支援体制の定着と継続を図り、児童の特性理解のための研修を深める。	個に応じた支援を行うために、専門相談派遣等を活用し、合理的配慮の理解と児童の支援の工夫に関する研修を実施する。	特別支援教育コーディネーター	全教職員で児童の特性を共通理解し、児童の指導に当たっては、指導法の工夫やスキルを学び、一人一人の特性に合わせた支援に活用したい。	【努力指標】 合理的配慮の理解に向けての研修会を実施し、児童への支援に活かすことができる。	A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は、取り組みの内容を再検討する。	学期末に教職員を対象のアンケートを実施する。
⑦組織運営	組織的な学校運営に努め、学校評価を機能させ改善に活用する。	学校評価の年間計画に基づき、効率よく仕事ができるようにPDCAサイクルで改善点を明確にし、改善していく。	教頭	各学期末にアンケート調査を実施して学校評価に活用している。今後効率よく仕事ができるように会議の内容の見直しや各分掌のファイルの整理や文書の管理を行い事務処理の短縮を図っていく。	【努力指標】 学校評価の年間計画に基づきPDCAサイクルを踏まえながら常に改善に取り組む。その中で組織的・効率的な学校運営に努める。	組織的・効率的な学校運営に努めることができた教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は取り組みの内容を再検討する。	学期末に教職員を対象のアンケートを実施する。
⑧研修	複式授業や特別支援教育の研修を深め指導法の工夫を図るとともに新教育課程の学習を組み入れていく。	積極的に研修会に参加して、先進校の実践や専門指導員に学び、児童や学級の実態に応じたきめ細やかな指導を行う。	教頭	各種研究会で学んできた内容を職員会議の後や、職員朝礼の中で職員に還元して、資料も回収してきたが、十分ではないため、研究会の後や放課後にOJT等の時間を設定して研修内容の還元を促したい。	【努力指標】 各種研修会で学んできたことがすべての教員の指導力向上に生かされている。	研修会で学んだことが教員の指導力向上につながったと感じる教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は取り組みの内容を再検討する。	学期末に教職員を対象のアンケートを実施する。
⑨保護者、地域との連携	授業の中にゲストティーチャーとして、保護者や地域の人材を活用し、地域の良さを学び、よりよい生き方を目指す意識を高める。	ゲストティーチャー一覧を活用して、各学年の単元計画や年間指導計画の中にゲストティーチャーを招いた授業を組み入れる。	教頭	総合的な学習の時間や生活科の時間に地域の方をゲストティーチャーに迎え地域の良さを学習することができたが、年間を通じて計画的に実施することができなかった。	【努力指標】 様々な教育活動の場に計画的に地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域の良さを学ぶに関する授業をすることができる。	ゲストティーチャーを招き、年間3回以上地域の良さを学ぶに関する授業を行った学級が A 4学級 B 3学級 C 2学級 D 1学級	CDの場合は取り組みの内容を再検討する。	学期末に教職員を対象のアンケートを実施する。
⑩教育環境整備	校舎内外の環境整備に努め、安全安心な学習環境の充実を図る。	安全で教育効果を高める教育環境づくりに努める。	教頭	計画的な安全点検を実施し、校舎内外の環境整備に努めている。校舎全体の環境整備については育友会、教育講演会、同窓会などと連携して整備に当たっていく。	【努力指標】 安全点検を徹底し、不備な点は早急に対策を行い、安全で効果的な校舎内外の環境整備となるよう努める。	安全で効果的な学習環境の整備に努めることができたと感じる教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CDの場合は取り組みの内容を再検討する。	学期末に教職員を対象のアンケートを実施する。